

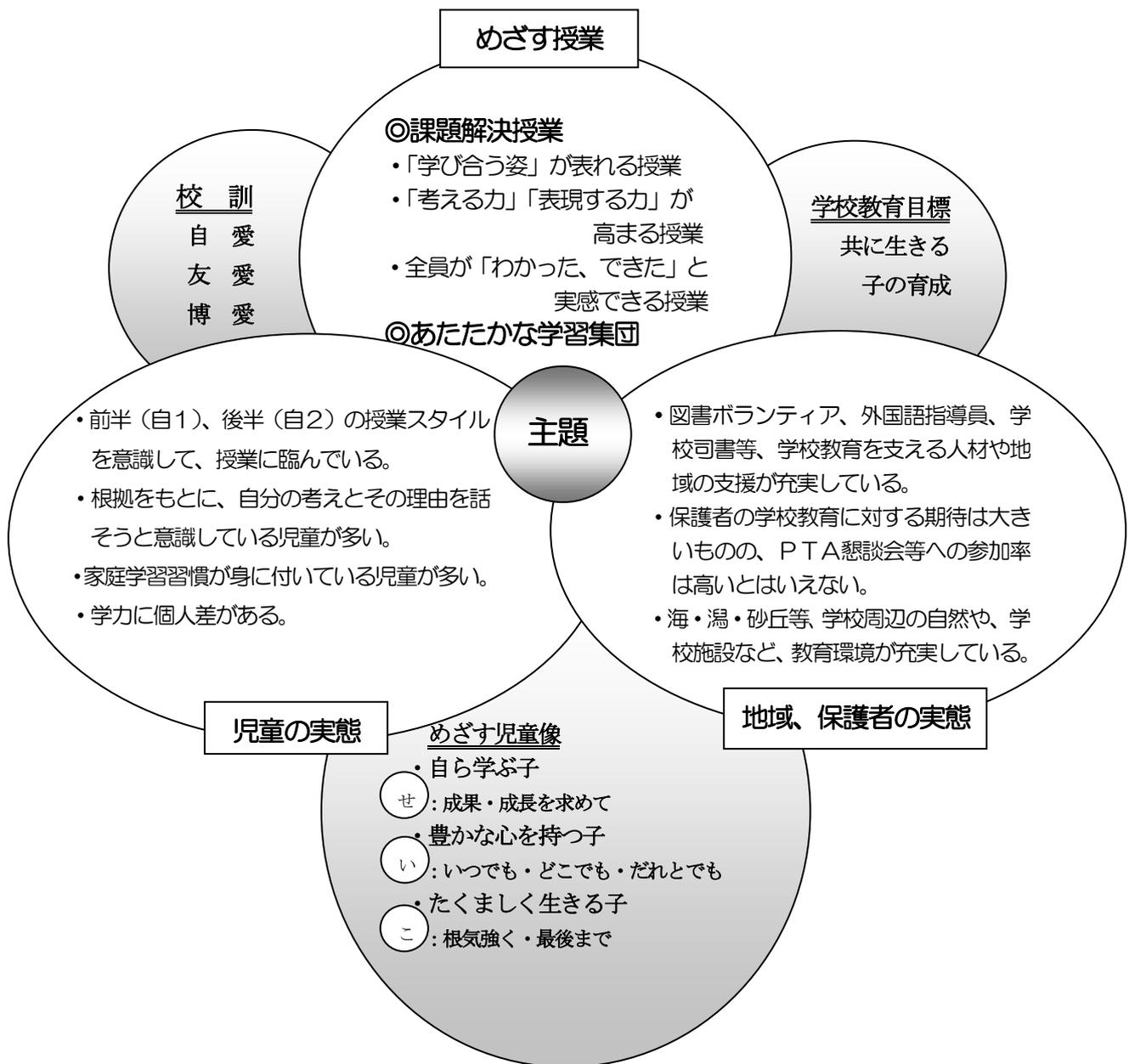
# V 現職教育

## 1. 研究主題

### 自ら考え、学び合う子をめざして

～「わかった、できた」と実感できる授業づくり～

## 2. 研究主題・副題設定の理由



本校が考える「自ら考え、学び合う子」とは、

「自ら考える子」…課題を見出し、既習事項やこれまでの経験を活かして、課題の解決や達成に向けて考える子  
「学び合う子」…考えたことを表現し合い、認め合うことで、学びを深め、「わかった、できた」と実感できる子

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子ども達、一人一人に獲得させたい。

本校では、令和2年度から研究主題を「自ら考え、学び合う子をめざして」とし、副題は、平成30年度から【「わかった、できた」と実感できる授業づくり】として、授業実践を積み重ねてきた。令和2年度まではこれまでの研究の課題を改善する視点として、【重点①②③】に取り組み、具体化を図ってきた。

重点①【問題意識が高まる課題づくり】

重点②【根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫】

重点③【「わかった、できた」を実感するための場の設定】

しかし、教師も児童も学び合いの中で課題解決をすることを意識し、ねらいとする「見方・考え方」をつけていくことが課題であった。そこで昨年度は【重点②】に焦点化し、本時でどのような考え方を身に付ければよいのかを意識し、再思考の場を設けて学び合わせることで、全員が「わかった、できた」と実感できるように実践を積み重ねた。その成果として、以下の点が挙げられる。

#### ◎再思考の場の設定

児童全員に「わかった、できた」と実感させるために、後半に再思考させる場を設けた。課題設定後の自力解決を自1、再思考の場で自力解決する場を自2と位置付けた。自2は「もう一度考える」の言葉も用いて児童に再思考の場であることを意識させた。自1で疑問やはっきりしないところを自2でもう一度考えることで解決したり、課題についてもっとわかったり、できるようになったりした。

#### ◎「教えるところ」と「考えさせるところ」の明確化

45分の授業の中で、再思考の場の設定をして、終末にまとめ・振り返り・適用問題等に取り組みさせるためには、児童に「何を考えさせ」「どこを教えるのか」を明確にして授業に臨んだ。これを意識して実践を積み重ねたことで、再思考の場の設定ができる授業が増えた。

#### ◎学び合い名人の活用

「学び合い名人」の掲示を活用して、自分の考えを表現させる際には「考え」だけでなく「根拠」や「理由」も添えて話すことを指導した。児童の表現の仕方では不足しているところは何か、学び合いをさせるために使わせたい言葉は何かを意識して、繰り返し児童に表現させたことで、指導したことが身に付いた児童が増えた。

以上のことが成果として挙げられるが、再思考の場の設定をするために時間を意識し過ぎて、「学び合い」による「わかった、できた」とならない授業も多かった。また、一部の児童の発言で授業が進み、全員が「わかった、できた」を実感できないこともあった。

そこで今年度も研究主題・副題は継続し、再思考の場で「何を再思考させるのか、その際どう発問すればよいのか」をさらに研究し、教師と児童のやり取りで解決するのではなく、児童同士の学び合いによる解決を目指して、全員が「わかった、できた」と実感できるようにすることで、主題に迫っていきたい。

### 3. 研究の仮説

授業者が児童の問題意識が高まるゴールの姿や問題の提示等を行うことで、児童は自ら課題を見出し、根拠をもとに話し合い、互いの考えを認め合う中で学びを深め、「わかった、できた」と実感できるだろう。このように実感する児童は、学び合いの良さに気づき、新たな課題について「自ら考え、学び合う力」を付けていこう。

## 4. 研究の重点と具体的な取組

児童全員に「わかった、できた」と実感させるために以下の三点について取り組むが、今年度も重点②に焦点を当てて研究を進めていく。

### (1) 問題意識が高まる課題づくり

- ① 付けたい力を明確にして児童にゴールの姿を示すことで、何を学ぶのか、何のための学習かという目的意識を高め、児童と単元計画を共有する。
- ② 課題は、多様な思考ができるもの、根拠や筋道が明確に表現できるもの、思考を深めることができるようなものにする。

各単元設計においては児童に付けたい力を明確にし、その力を付けるための学習課題や言語活動を設定する。単元のゴールの姿として、実物を見せたり、モデルを示したりする。これらは、児童の興味関心のあるもの、少しレベルの高いもの等ダブルパクト（コンパクトとインパクト）で問題意識を高める。

課題設定については、毎時間児童の「なぜだろう?」「どうすればできるようになるのかな?」等の思いを引き出し、児童の思いを全体に広げることで、その思いに対して「確かにそうだな。」「～をいかせばできるかもしれないな。」等、問題意識を全員で共有する。こうすることで、児童一人一人の問題意識を高め、課題に対して自ら考え、学び合えるようにしていく。

### (2) 根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫【令和4年度 重点】

- ① 児童に表出させたい「考え・根拠・理由」をとらえ、思考が深まる再思考の場の活動を設定する。
- ② 表現をする際には、昨年度に引き続き「学び合い名人」を活用した指導を充実させ、学び合う姿に迫る。  
「話し方」…「考え・根拠・理由」を明確にさせる指導を行う。  
「聞き方」…学び合うための聞き方の視点をもたせる指導を行う。

考えを書く、話す時は、何をもとにして考えたのか「根拠」を示し、そこからなぜそう考えられるのか「理由」を表現することで、聞き手に「確かにそうだな。」「そう考えればできるな。」という説得力をもたせることができる。しかし児童の発言は考えや思いはあってもそれを言葉でうまく表現できず、根拠や理由が不足しているものが多い。そこで、何を根拠、理由として考えさせ、ねらいにせまっていくのかを授業者が明確にしておくことで、児童の発言の不足部分を発問や問い返しによって表現させることができる。そして、学び合いによって全員が「わかった、できた」を実感するために、授業の後半に再思考する場を設け、全員に自分の考えを表現させる（話す・書く）。再思考の場は、前半の学びからさらに考えが広がったり、深まったりするような活動を設定する。そして、再思考の場では学び合いによる解決を特に意識し、児童に学び合いによって「わかった、できた」と実感させる。このような授業の経験を積み重ねることで、一人一人の根拠をもとに筋道立てて考えを表現する力につながると思う。

また「学び合い名人」の学習掲示を活用し、根拠や理由を発問や問い返しで引き出すだけでなく、児童が互いの発言を聞く際の視点を与える。聞き手には話し手の考えに対して、自分の考えと比較（共通点や相違点）したり、考えの意図をとらえたりして、受け止めながら聞くように指導する。聞くことが学び合う姿につながっていくと考える。

### (3) 「わかった、できた」を実感するための場の設定

- ・ねらいに合わせて、どんな力をどのように評価するのかを明確にしておく。
- ・学んだことを個で活用する場の設定（問題を解く、まとめる、振り返る）

ねらいにせまるために、どんな力をどのように評価するのかを考えて授業に臨む。課題について個で考え、

**学び合いを通して解決し、その学びを活用して個で解決する場を設ける**ことで、児童に「わかった、できた」と実感させ、教師は一人一人の児童が「わかったか、できたか」を評価する。

## 5. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

### (1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

#### ① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

- ・8:10～8:20の10分間、担任の指導のもと、取り組む
- ・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

曜日	内 容	
月	読 書	・読書
火	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 （国語）漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など （算数）四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など 活用力向上のための課題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用）
水	国語・算数 理科・社会	弱点補強問題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題、スマートスクールネット等を活用） 基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 条件作文（月2回）
木	読 書	・読書 ・ALT、外国語指導教員による外国語の絵本や国際理解の本の読み聞かせ ・読書ボランティアの方や教員による本の読み聞かせ
金	英語 （低学年は 2週に1回）	・外国語活動、外国語科での授業でのアクティビティ、チャンツの復習など ・映像教材の利用 ・エンカウンター要素を含んだ外国語でのゲーム活動

#### ② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定  
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定  
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習  
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・学習日より「CATCHBALL」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

#### ③ 読書活動の充実を図る

- ・朝読書（毎週月曜・木曜）の設定
- ・図書室イベントの開催
- ・地域ボランティアによる「お話会」、外国語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」
- ・家庭読書の日の設定（毎月23日のいしかわ学校読書の日、長期休業中の家族読書）

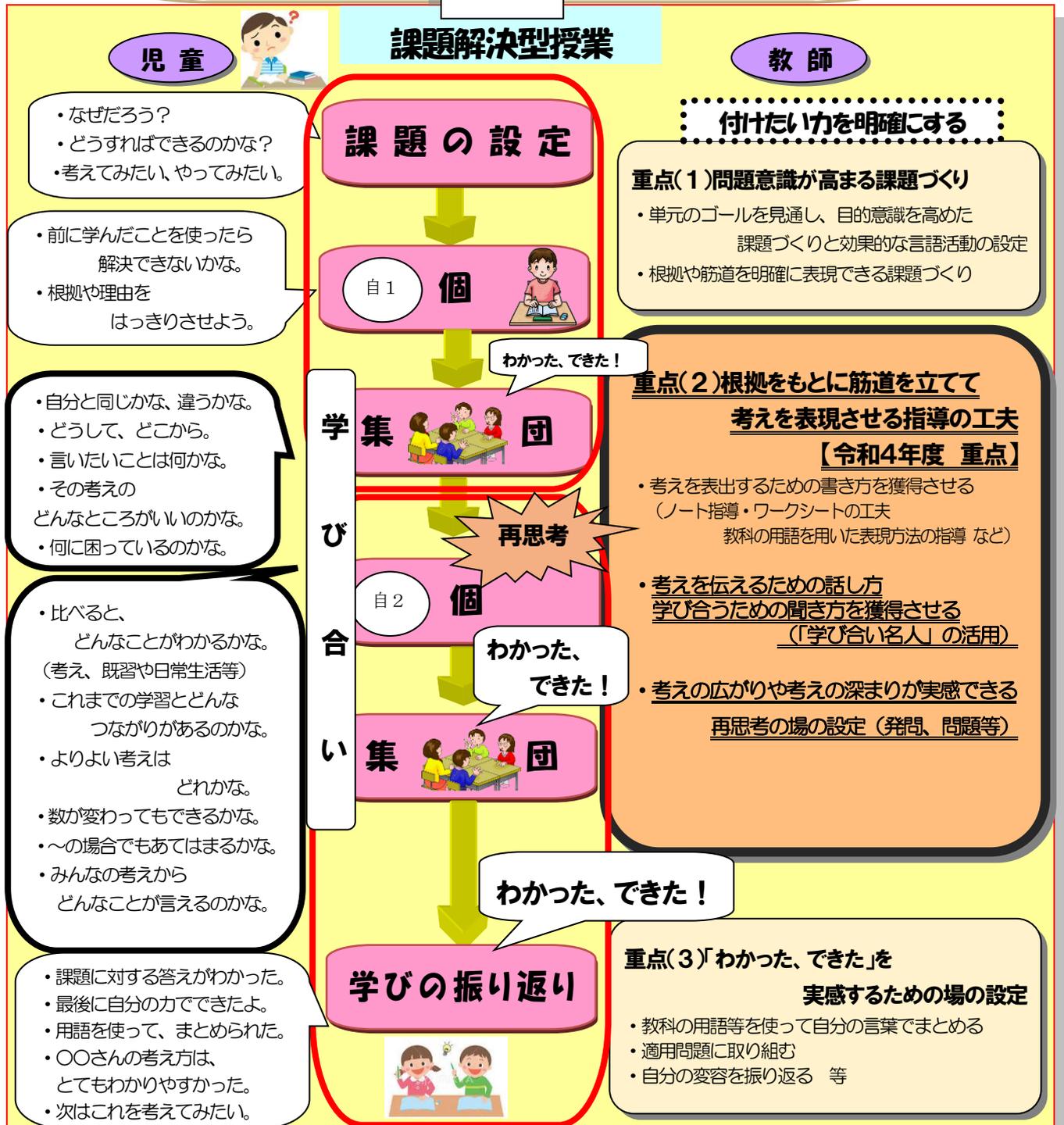
#### ④ 各調査から児童の学力の定着状況をとらえ、弱点克服の取組を実施



6. 研究構想図

# 自ら考え、学び合う子をめざして

学び合う力



基礎基本の学力の定着

学習習慣の育成・基本的な生活習慣

あたたかな学校・学年・学級集団